

第 1 回 旧高田温泉あやめの湯利活用検討委員会 会議録

日時：2023/07/10 13:30～15:40

場所：本庁舎 2 階 203、204 会議室 ※終了後、旧高田温泉施設を見学

出席者：14 名：委員 8 名、事務局 5 名、町地域振興アドバイザー

1. 開会

(1) 事務局紹介

事務局（課長）

事務局（産業振興課職員 5 名）自己紹介

(2) アドバイザー紹介（課長）

町が地域活性化を図るための取り組みに対しまして、専門家としてご指導ご助言をいただくということで、総務省から国の制度を活用して事業を行うためにお越しいただいている方でございます。

この度の旧高田温泉あやめの湯利活用検討委員会ですとか、近く開催予定の高田地域まちなか賑わい創出協議会やその他の活動に対してアドバイスを受けるということで、事業を進めることになります。

(アドバイザー自己紹介)

今ほどご紹介いただきましたとおり、私、総務省の地域アドバイザーをさせていただいておりますけれども、今回会津美里町の方からご要望をいただいてアドバイザー業務を行うことになりました。まずはこの時期は、皆さんのお話を聞いて協議会や推進委員会、検討委員会、それから職員と一緒にまずは地域活動などを見せていただいたうえで、町の基本方針を踏まえ、今後どのような施策を推進していけるか、少しでも力になればという思いで、仙台から来ております。どうぞ宜しくお願いいたします。

(3) 委嘱状交付

2. 町長挨拶（※副町長代理）

3. 委員自己紹介

4. 委員長及び副委員長の選出

5. 協議事項

(委員長)

それでは、協議事項の方に入らせていただきます。

先ほどの「旧高田温泉あやめの湯」閉鎖の経緯と現状について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

それでは皆様、資料の 2 ページをご覧くださいと思います。

本日の委員会ですが、旧高田温泉あやめの湯施設の新たな利活用ということで、

年度内に、新たな方針を決めていただくにあたっての 1 回目の検討会ということで、ご理解いただければと思います。

本資料の方には、申し訳ないですがスケジュール表の添付はしてなかったんですが、本委員会は概ね年度内に 3 回程度の開催を予定しております。

町は、来年度の予算に、この施設の整備に関する予算を計上するということもありまして、大体 10 月末位までに、利活用の方向性を決めていただくことでご理解願います。

なお、会議は概ね 3 回という形で考えておりますが、状況によっては増えるということもありますので、併せてご理解いただければと思います。

それでは、早速 5 番の協議事項に入らせていただきます。

旧高田温泉あやめの湯閉鎖の経緯と現状についてでございますが、

本施設は、皆さんご承知のとおり 3 月末をもって閉鎖しております。

町管理の公共施設に関しましては、少子高齢化や社会構造、住民ニーズの変化、町村合併により、類似施設を多数抱えている状況でございます。

公共施設の最適化を図ることを目的とした、町の公共施設等総合管理計画、それから町温泉施設利活用処分方針に基づき、当初民間への売却等を進めてきた訳でございます。

昨年 12 月の町議会定例会におきまして、新鶴温泉と高田温泉を含めた町温泉施設の状況について、民間への譲渡、また、高田温泉に限っては、源泉の枯渇と老朽化といった理由もあり、今後の運営が難しい状況であるということ踏まえ、温泉施設条例の廃止を可決いただき決定したところであります。

旧高田温泉あやめの湯施設は、オープン後 29 年を経過しております。昨年 12 月の段階で源泉の温度が 30℃以下とかなり低くなり、温泉の湧出量も毎分 5ℓ 以下ということで、温泉の機能がほぼ失われてしまっているという状況であり、それも含め施設も相当の年数を経過し、老朽化が激しい状況の中、維持管理が困難なことなどの理由から温泉施設を廃止して、新たな利活用を図っていくという結論に至った訳でございます。

この施設は複合施設であり、中心に福祉施設であるあやめ荘、右側に健診等に使っている保健センター、一番左端に旧あやめの湯の温泉施設と、3 つの併設した施設という形で存在しておりますが、この施設は切り離しての利活用ができないという状況でございます。

中には変圧器であったり、電気設備等、当然ながら共通する部分がございますので、こういったことも踏まえ大幅な改修ということはなかなか困難な状況であり、利活用する上でも制限があります。何かと現状厳しい部分もございますが、こういったことを踏まえた利活用策を検討していきたいというふうに考えております。

資料の中ほどに、この施設の建築年度、それから面積、建物、土地の面積、建物の構造を掲載してございます。

温泉施設閉鎖の理由に関しましては、今ほど申し上げた内容となっておりますので、こういった現状を踏まえ、新たな活用についてご検討をいただければありがたいと思います。

(委員長)

只今事務局より、(1) 旧高田温泉あやめの湯閉鎖の経緯について、説明がございました。

委員の皆様からご意見、ご質問はございませんでしょうか。

(委員)

老朽化は、建物だとか設備そのものなのかということと、老朽化でとなると、利活用できるのかなっていう、ちょっとした不安も残念ながらあるんじゃないかなと思うんです。

そうなるよりも、工事をして建物をしっかりとした建物にしないと、安心して利用できないし、中に入っても危ないんじゃないかと考える方が多いと思うんです。例えば他の施設にしたときにいつでもやめられるような使い方をするのかという

ところをもう少し厚く話をさせていただければと思います。

(委員長)

ただいまの質問に対しまして、事務局お願いします。

(事務局)

今、委員の方からお話のあった部分でございますが、先ほどから老朽化という話をさせていただいておりますが、あそこの施設は、ほぼ同時期に建設しており、差は当然あるわけなんです、老朽化という部分は避けて通れないところでございます。新たな施設として、利活用する際には当然ながら、そういう部分の修繕や中身の検査等々を行いながら、新たな利活用に耐え得る施設となるよう、修繕は必要になるうかと思っております。

(委員)

老朽化して分かっていて利用したら、次の老朽化の時にすぐ辞めてしまう恐れがあるので、続けられる施設にしないと。

(事務局)

利活用の内容にも当然よりますが、どういう形であれ、今現存する施設を利用するのであれば、それなりの耐久性だとか、その辺をまず検査等々行って、それに耐え得るものかどうかという判断のもと、足りないものであれば、当然それに見合った修繕が必要になってくようかと思っておりますので、ある程度の概要が見えた段階で、専門家の判断のもと、建物に関する総合的な判断は必要になると考えております。

(事務局)

今、建物の話が出たので補足説明をいたしますが、この建築年度が平成6年になります。

耐震上は、耐震を満たした施設になっております。

ただ、当然老朽化しておりますので、今、皆さんがお話しされたように、修繕は当然必要になってくるかと思っております。

当然町として施設をオープンする以上は、その危険なところは直したうえで利用することになります。

ただ、皆さんの方で例えばこういう施設だって言ったときに、そこまでの改修に耐えられるかどうかは、次年度以降、実際に設計とかを行う際、今お風呂の浴槽はそのままになってますが、そこを例えば何かで埋めたときに、重さの関係で埋められないとか、多分そういう制限がいろいろ出てくるとおられますので、細かい点につきましては、この委員会で方針を示していただいた後、次年度以降に実際その設計する方と町のほうでいろいろ協議を進めさせていただいて、どういう施設になるかということで進めていきたいと思っております。

(委員長)

よろしいでしょうか。

他に何かご質問がございましたらお願いします。

(委員)

素朴な疑問ですけど、年間の維持管理費とかはどのくらいですか。

今までの、単純に温泉としてはどのくらいですか。

(事務局)

温泉につきましては、町が直接管理するのではなくて、指定管理という形で、応募いただいた事業者に管理を町がお願いしていたんですね。その指定管理料というのをお支払いしてましたが、それが年間約1,500万円くらいです。ちょっと今手元に資料がないので正確な数字は分かりませんが、約1,500万で、それはあくまで指定管理料だけ

になりますので、その他に例えばポンプが壊れたとかの修繕が2年に1回ぐらいですとか、この施設自体がかなり古くなってきてますので、何百万という修繕費が毎年かかったというような状況になります。平均すると、ここ過去2年くらい利用客が減った関係で指定管理料というのが増えたのですが、修繕料と合わせて大体2,000万円くらいだったと思います。正確な数字は分かりません。次回の会議にでも。

(委員)

この前まで、あやめの湯っていくらで入れたんですか。

(事務局)

大人が520円、65歳以上が310円、小学生未満が無料です。

(委員長)

よろしいですか。

(委員)

はい。ありがとうございます。

(委員長)

他にございませんでしょうか。

(委員)

今言われた、指定管理料の総額のお金2,000万。今後の予算としては、継続して2,000万ぐらい出す方向性なんでしょうか。それとも、0に限りなく近いという感じなんでしょうか。

(事務局)

今の件をご説明いたします。温泉は温泉として、維持する上でこのくらい必要だったというお金ですので、これは当然、どういったものに活用するかということで、町の方も、それをしっかり整理して使っていきたいということで、もちろん無駄遣いではできませんが、必要な予算はしっかりつけていかなければならないと考えております。

(委員長)

よろしいでしょうか。

(委員)

大体1,000万円とかそういう予算というのは、全然決まなくて、この会議で色々方向性が決まって、何をやるかによっていくらかどうか、予算が付くということでもあります。

(事務局)

温泉の場合は、実際に何にお金がかかったかという、やはり温泉の温度が低いので、それを温かいお湯にしなくちゃいけないので、例えば燃料代ですとか、これには電気なんか使いますし、電気代ですとか水道代とかそういったものが必要となったんですが、今度はどんなものを使うかというところで、そういった大量にお湯を作るとかそういうことがなければ、そんなにお金はかからないと思いますので。

ただし、どういう施設を作るかによって、必要な金額も変わってくると思いますので、一旦今までこのぐらいかかっていたというベースは置いておいてもいいのかなと思います。

やはり、今後この町にこんな施設が必要だということで議論していただいて、その中に、予算はあとから、それにはこういったお金がかかりますねということで、また議論していただければいいのかなというふうに思います。

(委員長)

よろしいでしょうか。ほかにございませんでしょうか。

なければ、(2) これまでの調査と実施結果についてということで、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

それでは(2) 番のこれまでの調査と実施結果についてでございます。

今年のちょうど今ぐらいですね、7月の資料にもございますが、この当時、高田温泉もそうなんですけど、新鶴温泉の譲渡関係も含めて、温泉の今後のあり方という形で、アンケート調査をとらせていただいたものでございます。

この中で、高田温泉あやめの湯、その当時から源泉の枯渇であったり、設備の老朽化だったりというような理由で、閉館しなくてはならない状況になっているということを踏まえたアンケート調査の結果でございます。

これにつきましては、SNSを利用したアンケート調査をとらせていただいた中で、実際、回答者の総数97名のうち、「残して欲しい」と答えた方が26名、廃止が71名という結果をいただいたところでございます。

これにつきましては、この調査の目的にございますが、先ほどから何回もご説明それからご質問等いただいている内容でございますが、老朽化が進んでいるので、維持していくためには維持費も必要になるということですが、そういったことを踏まえて、今後どういった利活用を図っていったらいいのかという部分でのご意見をちょうだいしたところでございます。

3ページに、結果を踏まえた今後の温泉施設の方向性、このようにしたらいいんじゃないかというようなご意見を頂戴しております。何点かご紹介させていただきますと、子育て支援や世代を超えた交流、それから憩いの場として利用したらいいのではないかというご意見。それから、もともと福祉施設でございますので、引き続き高齢者等の運動教室だったり、健康維持の場として利用してはどうかというご意見。それから、本町には道の駅等がございませんので、町の特産品だったり、お土産、こういったものを中心に販売できるような、そういった道の駅的な役割を持たせたらいいのではないかというようなご意見。あとは、子供たちですね、未来を担う子供、それから若い世代が楽しめるようなまちづくりに繋がる施設であったり、隣に保健センターも併設してございますので、子供の遊び場を兼ねた総合的な健康管理に役立つような施設、一体的な利活用ということでもありますが、そういった利用をしたらいいのではないかというご意見。それから、幅広い年代の町民の方が利用できるような施設にしたらいいのではないかというような、主なものでございますが、こういったご意見を頂戴しているところでございます。

その下、黒四角の部分で、新たに利用方法について各年代の皆さん、男女それぞれいただいておりますが、温泉の利用を将来的に考えた場合、美里町に住む者として、こういったものがあれば非常にありがたいのではないかということのご意見、本当に一部なんですけど、このようなことでいただいているところでございます。

時間的なものもあるので個別の紹介は割愛させていただきますが、内容を後程ご覧いただきまして、町民の方が、このようなご意見を持ってらっしゃるというようなことで、ご参考にしていただければと思います。

(委員長)

(2) これまでの調査と実施結果につきまして、何かご質問やご意見等ございましたらお願いします。

(委員長)

私の意見を述べさせていただきます。

町のいろんなアンケートを見ると、やはり子供の遊ぶ施設がないっていうのはすごく出てくる印象でございます。

だからといって、あやめの湯のところに付け焼刃で遊びの場を作ったりとか、子育て支援センターを作るというのは、私

としては、老朽化してる建物の中でそういうのを作るというよりは、しっかりとした建物を作って欲しいと常々、町の方のいろんな会議でも述べさせてもらってますが、議会だよりの方にも、このあやめの湯については子育てっていうような意見があって、何となくそれを読んだ人からすると、子育て支援の施設なのかなというように思ってしまうところがあるので、本当にこの委員会の中でしっかりとした現状を踏まえ、何をどんな形で利用するのが一番いいのかというところを、皆さんの中で意見を出していただくと、すごくいいなと思います。

先ほど、この中に書いてあるように、場合によっては更地にして他のことに利用するというのを頭に入れながら、本当にいい方法を考えてもらえばと、意見的な感じではあるのですが、述べさせてもらいました。

(事務局)

今のご意見、ごもっともなご意見ということで受け止めます。

老朽化というのはかなり出てきてはいるのですが、確かに耐用年数の方も、あともう少しでその年数にはなるとことです。建物そのものは、耐用年数が来たとしても使えないというわけではありませんので、例えば法定耐用年数は、木造であれば25年と一般的に決まっていますが、要するに新築の住宅が25年で使えなくなるわけではないので、そこは手入れの仕方です。

特に老朽化しているのは、どちらかというと設備ですが、温泉を維持するにあたって、ボイラーとか、滅菌機、ポンプとかいろいろあるのですが、そういったものは大体耐用年数は15年と言われているので、そういったものについてはもう30年近く使っており、やはり老朽化しているということで、躯体そのものは、このあと会議が終わったら見ていただきたいと思うのですが、当然修繕は必要だと思いますが、すぐにやらなければ駄目になるというわけではないと思いますので、そういう中で、確かに委員長がおっしゃるとおり、これありきではなくて、このくらいの大きさの建物だったら、町にこういう使い方ができるのではないかと、ご検討いただければいいのかなと思います。

ただし、先ほど申し上げましたとおり、やはり鉄筋コンクリートの建物なので、例えば今の2階建てのものを途中でどこか抜いてしまったり、抜いて1階にするとか、2階あたりも大幅に改造するなんていうのはちょっと、躯体でそういう対応できるものがあるかどうかというのは調査してみないと分からないのですが、まずは施設の中も見ていただいて、今日は1回目ですので、今すぐここで何か意見をくださいと言ってもなかなか難しいと思いますので、現地やあやめ荘の方も見て、こういった利用ができるのではないかと、というイメージを作っていただいて、2回目、3回目あたりで、いろいろご意見をいただけるとういのかと考えています。

(委員)

今ほど聞いていたアンケートの結果を受けて考えていく上で、アンケートで見ると多数決的な話で意見が多いものとして考える考え方と、福祉や子育て等ご自身が関わっている分野で使いたいという考えがあると思うんですけど、町全体として、本当にどういう使い方がいいのかという、やっぱり観光と福祉は全く別ですし、将来的にまた使うとなると、将来この町はどうなっていくんだってところが見えてないと考えられないと思うので、本当に何が必要なのかというのと、ある程度町のデータっていうのは、こんなことが書いてあってこんなものが、アンケート以外に実状的な町の要約を入れたものがあると、将来図がどうなっていくぞみたいなお知らせいただくと、考える術が見えてくるのかなと感じます。

(事務局)

ただ今のご意見も、重要なご意見だと思います。

確かに町としましては、あやめの湯っていうのは本当に一部の施設でして、今はご存じのとおり、美里の公民館の跡地についても、公民館を壊して、東邦銀行の隣ですけれど、今更地になってまして、あそこについても、やっぱりまちなかの賑わい創出を今後図っていく必要があるということで、当然そこについても、住民の皆さんがこういったような施設があれば、もっと賑わいが戻って来るんじゃないかとか、そういった委員会をおこして検討していきますので、当然関連性も出てくるわけですし、高田地域から外に目を向けると、今本郷地域では、本郷一小の跡地利用ということで、やっぱり将来に向けての検討委員会なども行ってますので、そういうのは確かにすべて含めた中で、やはり、皆さんにご提示、ある程度情報をどこまで...進み具合もあるので、どちらかというところの方を急ぎで進めたくて、ある程度、高田地域のまちなか賑わい創出なり、本郷一小なりはもう少し時間はかかると思うので、方向性とかもお示しながら、議論していただく必要があるのかなと感じています。

(委員長)

これから本当に少子化、過疎化で、町の財政がぐっと減っていくと思うんですね。そういう流れの中で、今いろんな財産を差し引く委員になっているので、本郷一小もそうですし、消防組合の方もそうなんですけれども、本当にその町が今後活性化していくために、このぐらいのお金を使って、将来的なものをやっぱり見ていかないと、作ったはいいけども結局将来はそれ使わなかったとか、何も有効利用にはならなかったとかというようになってしまうことでは困るので、その辺は、ぜひ町さんの方の、ある程度考えというか、町の財政状況が何かで、こういうふうにしていかなきゃならないとか、私も常々言ってるのは、お隣に子育て支援センターを作ってくださいというようなことを言っていて、保健師さんもすぐそばにいるし、一番そういう形で、やっぱりこれからの子供たち、担う子供たちを、育てていくそういう場が、そこに遊び場もあれば、どんどんそこに来れるんじゃないかなという、総合的な部分はあるんですけど、いかんせんその財政的なものはやっぱりあると思うので、その辺がどの程度まで町として考えていけるのかなという部分も、示していただけると助かるんですけども。

(事務局)

ありがとうございます。大変重要な意見だと思いますので、今のいただいた意見なども内部で再度共有して、ある程度2回目辺りには、もうちょっとしっかりしたものを出せるようなことで進めたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(委員)

私2つあるんですけども。

ふれあいセンターあやめ荘さんと同時に建てましたよね。

(事務局)

あやめ荘の方がちょっと早いです。あやめ荘は平成4年度ですか。

最初、お風呂はあやめ荘の、今のミニデイサービスのところにありました。

このあたり副委員長が詳しいと思うのですが。

(副委員長)

ふれあいセンターあやめ荘って、あやめの湯と、あやめ荘と、保健センターってあるんですけども、保健センター、あやめ荘が最初にできました。そのあとに、あやめの湯が完成して、もともとあった小さいお湯を廃止したんですね。

私あやめ荘が完成してからずっと居るのですが、この4月から指定管理の仕事を受けているんですけども、人が来

るようにどのようにしたらいいかなっていうのを検討中で、これから旧あやめの湯の利活用に関してですが、活用するにあたって、人が来れるような建物であつたらいいなっていうことで、できれば、他町村や他県から来ていただけるような内容で考えていただきたいと個人的には思っています。

(委員)

施設的には今のふれあいセンターあやめ荘さんも、耐震、要はこっちだけを、今のあやめの湯を直そうとして、こっちのあやめ荘さんの方は別に関係はないんですね。電気設備等は一緒になってるっていうのは切り離されないじゃないですか、そういうの、こっちを直したから次こっちを直すということではなくて、あやめの湯の方を直せば、普通に利活用できるっていうことで、もしそれ何年後かになったらそっちが駄目になって利用できなくなるとか、そういうことではない、っていうのが一つと、もう一つがお湯。お風呂を入れるところを、要は温泉のお湯は使えないかもしれないんですけど、普通に水道水としてシャワーを浴びたり、ひよつとしたら普通にお湯を貯めて入れたりっていうことには、設備的に変更はできるんでしょうか。

(事務局)

温泉施設としての利用という形で今までやってきた中で、実際源泉の枯渇という理由で温泉の廃止ということで閉鎖したわけですけど、実際そういった沸かし湯だったり、そういうことでの利用が可能なのかっていうことですよ。実際設備的なものをすべて入れ替えというのはどうか。

そもそも、先ほど課長の方からも説明させていただいた中で、建物よりも中の設備的なものの老朽化による機能の低下という部分もあるので、そういうことからすれば、新たにそういう部分での利活用ということは、経費という部分で、やはり大変なのかなと思っております。

(委員長)

先ほどの一体化の部分の質問に関しては。

結局は躯体的には考えるんだけど、そこが壊れてどうのこうのって、全然そこまでは考えないというか、とりあえずはそのあやめ荘の部分だけっていう考えでいる。

(事務局)

そうですね。そんなに建築年度が変わらない。同時に作った施設ではないので、若干そういったずれというのはあるんでしょうけども。

(事務局)

当然建築年度は近くて、どちらも建物そのものは、ある程度躯体そのものが、私素人見になるんですけど、あと建築士ですね、検査だったりがあるんですけど、躯体そのものは大丈夫だろうということで、当然安全安心のために必要な修繕というのはある程度必要になってくるとは思いますが、そっちを直したら急にこっちが駄目になるってことは、その躯体の話はないと思いますので。あと、さっきお話しました水道水でやったらどうなのかというものにつきましては、やはり、ボイラーとかそういうものが常に半分壊れていたものを使っていたような状態なんです。

「真空ボイラー」なんですけど、真空じゃないような状況のものを無理して使っていたところがいろいろとありまして、設備的に、お湯を沸かすとかというのはちょっと限界があるので、そういった理由でボイラーから沸かし湯にするためのそういう設備交換をするのは、なかなか難しいと思います。

(委員)

なぜそういうことを言ったかと言いますと、アンケートにはちょっと書いてあったんですけど、個人的には私陸上とかやってたこともあって、トレイルコースを走ったり、二本柳公園があって、結構運動ができる場所です。

で、そのあとに、昔はあやめの湯の一階のところに、体を鍛えるゾーンがあるんですね。そこでちょっと雨の日とか鍛えてたような記憶があるんですけども、あやめの湯建物自体は、ちょっと休憩スペースありますけど、中がそんなに広い感じのイメージではないのですが、結構、階段あたりが堅牢で、しっかりしてるんだなあという感じなんですね。

個人的な夢なんですけど、何か合宿とかに使えたりとか、宿泊に使えたりとか、子供会の遊び場に使えたりとか集まりに使えたりとか、そういう時に近くで汗をかいて、シャワー浴びれるって言って、男女にせっかく分かれてるんですから、そういう感じの施設に使えたらいいなと思うんです。別に温泉のお湯が出なくても水道水で結構で、家で風呂入るじゃないですけど、本当に簡略なシャワーがあれば。

(事務局)

この旧高田温泉あやめの湯利活用検討委員会につきましては、本当にゴール地点を決めているわけではありませんので、当然今のようなご意見をいただいて、例えばそういう施設にするのであれば、家庭用のボイラーみたいなので間に合うようなシャワールームであればできると思いますので、これが駄目とかという話ではありませんので、そういう中で議論していただければいいのかなと思います。

あと一つ気になりますのは、新鶴温泉の方ですが、民間に売却しまして、こちらの方もこれからお客さんを呼び込んでいかないと経営が民間として大変だということで、やはりおっしゃっていたような、大学の合宿を呼んだり、やっぱりそういうことをやっていかないと、なかなか大変だよって話にもなっているようですので、そういうものも含めて、先ほどの町全体を見ながら、やっぱり議論していただく必要があるのかなと考えております。

(委員長)

今、事務局から話があったように、今ここで決めるわけではなくて、実際に今日現場を見て、自分たちで考えるところを通していろいろな人の意見を集約しながら、どの方法が一番いいのかということを考えるのがこの委員会でございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

他にございませんでしょうか。

(委員)

多分、29年前の1億円を支給しての温泉だったと思うんですけど、この2年でお客さんが少なくなったっていうのはコロナの影響もありますが、それで皆さんにお尋ねしたいのですが、この中で1年間であやめの湯をご利用した方はいますか。いないですね。私も正直なところ温泉はもう、やっぱりコロナになってから、どうしてもこう、お世話になる人もいたなっていうふうな意見になってしまったところは、本当に高郷の湯とか、坂下の湯もありましたし、それから湯陶里や新鶴温泉にも子供たち連れながら冬のレジャーとして利用したんですけども、そういうブームもありましたよね。ひと頃の温泉ブームってのがありましたので。そういう意味ではひと昔の温泉ブームは去ってしまったのかなっていう、私自身の個人的な意見もあるので。やはりここ会津の地域を考えたら11月ぐらいからはほとんど外での活動ってできないじゃないですか。11、12、1、2、3、4月ぐらいまでですね。

そういったことを考えると、やっぱりどうしても室内で、どうしても子育ての方に行ってしまうんですけども、乳幼児では遊べるんじゃなくて、もう少し、保育園、幼稚園ぐらいから小学生ぐらいの幅広い年代まで遊べる、私個人としては、温泉の跡地を大きなトランポリンとか、ちょっと上まで天井まであるようなところの施設みたいなそういった、大きな遊び

場みたいなものが欲しいなっていう意見です。

(委員長)

皆さんすぐ意見を持っていらっしゃると思うんですが、そこはこれから現場を見て、そして皆さんの意見を集約していきたいと思いますので。本当に10月までというタイトなスケジュールだと思うんです。

それでどういう形になるかは分かりませんが、その辺は皆さんの中で、現場を見て、こんなのがいいんだろうなっていうような思いがありましたら、次回とか、その次くらいにお話をいただければと思います。

(アドバイザー)

私の立場からよろしいでしょうか。

今日の議論で皆さんのお話を聞いていたところと、今回の資料と併せて行政側の報告をいろいろお話をさせていただいて、結局全体調整がわからないという状態で、皆さん悶々とされていたのではないかなと思います。

私が委員になると同じことを言っているのですが、やっぱりこの施設ありきだけど、施設はなくてもいいという、簡単にいうともうこんな使いたくないから全部壊して、予算を作れるんだったら、今年とは言わないから、10年後でもいいから、こういうものを作ってくれという、極端な話、そういう意見になるかもしれませんね。

いずれにしても今あるこのあやめの湯、私は美里に来ると、仕事柄もあって日帰り温泉に入っていきます。で、コロナがあるから、逆に言うと首都圏の人は、郊外でレジャーなんですよね。郊外に行くと安全なので。それで、日帰り温泉というのは、ここはどうだかわかりませんが、一般的に利用者が伸びています。あとスポーツなされている方。町の中でマラソンはできないので、田舎に来て温泉に泊まって、トレーニングするっていうのがすごく増えました。それで行った時も、宿泊があってももちろん良いし、グランピングみたいなものがあってキャンプに行って、走って、日帰り温泉行ってお風呂入って、その辺の産直に行って、野菜買ってきてバーベキューして一週間過ごす。それで言うと、美里なんか非常に面白い。若松の人達はすごい近いから来たがるんじゃないかなと思ってるんです。

それで、さっきの話に戻ると、今議論に出てるあやめの湯の前提条件による部分ですけれども、これからちょっとこちら側として話しますが、実際にどういう目的で、共通事項としてご存知になっていたほうが良いと思うので、どういう資金であれが建てられたのか。いつ建てたのか。その目的は何だったのか。ですよ。

耐用年数の話が出てきました。これまでの私らが地域づくりしている場合だと、木造だと25年。鉄筋の場合は、縦に50年と出てます。29年ですから、一般的にも20年しか使えないわけです。

という先ほど委員さんから出たように。いつまで使うんですかという質問がありましたけど、20年って、残念ながら、長いようであつという間なんですよね。

20年という一つの、会津美里町基本計画の中のどこぐらいまでの規模での、ところを考えてこれを使いたいという需要を考えるのが、ご商売されてるのが多いと思うので、これやっぱり、初期投資と、それからランニングコスト、収益性と持続性と継続性の話が来るんで、20年しか建てられないものにどれだけ金使ってくれるの、いくら収益生むの、もしかするとこの中に業務委託を指定管理で受けるところが出てくるかもしれないけど、収益性はどうかというところまで考えられる委員さんだと思うので、次回には、こっちのほうでちょっとお話ししたいと思いますけど、その前提条件の、施設の概要ですよ、もうちょっと皆さんにお話できた上でご議論いただけるように、次の会議の前までに、資料として郵送することは可能ですかね。

(事務局)

そうですね。

(アドバイザー)

それであれば、その地図をもとに、皆さんで考えていただく。

ただ、極論であれいらないよ。っていう方もいらっしゃると思うし、20年って半端だよねってなるかもしれないし、というところもまず、アドバイザーの立場として必要だなと思いました。

(委員長)

ありがとうございます。進めさせていただきます。

(3) アンケート調査の実施に伴う調査項目について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

それでは資料の5ページ以降ですね、ご覧いただきたいと思います。

今ほどこれまでの調査と実施結果ということで前回のアンケート調査を踏まえて、こういったご意見を頂戴し、それに基づく議論を今ほどいただいたわけですが、今回、旧高田温泉あやめの湯の利活用ということで、改めてアンケート調査を実施したいと考えております。

5ページ以降、今回、実際にアンケート調査を行うにあたっての内容、旧あやめの湯利活用に関するアンケート調査にご協力をお願いいたしますというような表題のもと、このような内容で調査を行いたいというあくまでも案の段階ではありますが、皆様にご意見を頂戴したいと考えております。

まず、アンケート調査の対象者ということで、町にお住まいの20歳以上とありますが、この年齢の設定についてもご検討いただければと思います。

大体アンケートの対象人数や、設定対象者ですね、この数も併せてご検討いただければと思います。

アンケートの回答方法ということで、6ページ以降、調査項目について案の方にもございますが、調査用紙の各設問ですね、大体10問程度を予定しておりますが、回答いただいて返送いただくということで、大体8月いっぱいくらいまでの予定で考えておりますが、この辺もご検討いただければと思います。

6ページから7ページにかけて、アンケート調査項目について括弧案でございますが、目的、旧高田温泉あやめの湯の利活用に関して、本アンケート調査結果を踏まえて、町民と検討委員の皆様の意見を反映した利活用方針を決定するための材料とする。ということで、以降、対象・期間・調査項目とございます。

今ほど申し上げたとおり、調査項目については10問程度を予定しておりまして、それぞれ第5問以降、本題に入るようになろうかと思っております。

設問に関しては、こちらの方でこのような内容で作ってはみたのですが、委員の皆様の方から、内容をご覧いただきながら、ご意見をいただければ大変ありがたいと考えております。

一応このアンケート結果をもとに、次回の第2回開催時に、結果等を踏まえ、今後の方向性を改めてまたご検討いただければと考えております。

どうぞよろしく願いいたします。

(委員長)

今、事務局から説明のありましたアンケート調査の実施に伴う調査項目につきまして、質問等ございましたらお願いします。

(委員)

まず1問目ですけど、10代の方が入ってないので、様々な世代の意見をいただくっていう意味でも入れていいのかなって思います。あと無作為に1,000人っていうところだと人口ボリュームに合わせた対象人数になっていないと思うのですが。ただ、年齢ごとに何人とかっていう無作為に抽出する方法もあるのかなと。

(事務局)

今、委員さんの方からご意見をいただきましたが、確かに年齢的にあくまでこの場でちょっとご検討いただければと思いついて、あくまで案ということでこの年齢の部分はあげさせてもらってますので、当然ながら今の若い世代で、今後この地域を支えていただく方々への問いということも当然必要ですので、この年齢はもっと若い世代からっていう形で吸い上げが必要なのかなというふうに、事務局のほうでも考えております。

で、対象者の数もそうなんですけども、実際ある程度回答いただいたときの、その処理が対応可能な人数というか、そういう部分で検討しております。

(アドバイザー)

会津美里町の中学校数と高校数はいくつですか。

(委員長)

中学校が、美里でいくと3つで高校が1つ。会津西陵高校っていうのが1つあります。

私、この間秋田の大館に行った時に、ふるさとキャリア教育っていうので、6年生の子供たちが、この大館のいいところはどんなところですか、そういうようなことを一生懸命議論しました。

やっぱりそういうところを、同じ美里町に住んでいる子供たちが、この施設はどんな施設で使ったらおもしろいのかというようなアンケートの仕方もあるのかなと思います。

(アドバイザー)

私もどこが管理するかでお伝えしたと思いますが、やはり、美里に限らず、どこの町も全部今超高齢社会でしょう。でも、今の施設で例え、耐用年数が20年になっても、20年後にまた切り換えが必要になるかもしれないというところを考えると、ここに生まれ育った人たちのアイデンティティの醸造っていうのも必要だし、地域を知るっていうことが必要。もっと学校関係者の方、よくご存じだと思うんですけど、実は学校の先生たち、めっちゃくちゃ困ってるのが、地域教育なんですよ。それこそ社協さんいらっしゃいますけど、食育もそうですよね。ここ農村地帯なので、食育から考えると地産地消の問題も出て来るし、好き嫌いのこととか肥満とか健康とかいっぱいありますよね。私も学校で授業をやったりするので。そういうことを考えると、地域全部が回ってるということ、学校の先生は教え切れないので。だけど、まちづくりというところで検討しましょうと言って、例えば一つの案ですが、もう行政側に丸投げするんじゃなくて、我々行政職員が動くんじゃなくて、この委員会3人1組ぐらいで調整して、この中学校に関しては、学活の時間にこの話を年に3回話しましょうとか、この委員会で立ち上げるっていうのも方法かもしれません。ぜひ、なかなかやれそうできないところを美里で発進していただければ、話題性にもなるし地域みんなのためにもなるので。大変なことですけど、誰かが言わないと発進できないので。

(委員長)

若松でやってるところが多かったりするんですけど、その中でいろんな取り組みをしていて、街なかのごみを拾いましょうなんていうことで、ずっと街なかを歩き回り拾ったりとか、いろんなところでボランティアしましょうとか体験をやっているの、

すぐ何かそういうところも考えられるのかなあと思います。

(アドバイザー)

逆に、美里というか新鶴ももちろん本郷も高田も美里町ですよ。マラソンが有名だとか、そういう得意な部分を持つ学校がいっぱいあって、次の世代で僕はこれが上手いとか、それを誇りに思っている子たちがいるから、さっきおっしゃったように、どこでも走れる町美里って、走ったらここでちょっと雨の日はトレーニングができるし、ここでシャワー浴びて帰れるし、塾に行った後でシャワー浴びて帰れるし、みたいなものがあつたらいいなと思っている子どもたちが実は多いんじゃないかとか。聞いてみなきゃ分からない。

(委員)

もし 10 代の方たちにもこのアンケートに答えるチャンスがあるのであれば、アンケートの回答方法ですけど、調査用紙になってますが、前は WEB だったと思います。用紙にするのかどうなのか、今回は、WEB 回答もできるのでしょうか。10 代の方が答えるのであれば、紙よりは、今皆さん ICT で使えるようになっているので、そこでも回答ができるとか、そのような活用ができるのではないかと思うのですが。

(事務局)

こういう世の中ですと、SNSの方が回答率も上がりますし、効率のいい集計方法も可能ということからすれば、紙に特化する、紙じゃなくてもいいとはいえないとは特に考えてなくて、あくまで案という形で申し上げているので、いろんなご意見がありますが、若い世代からもそういった広くご意見をいただくことを踏まえて、適切な方法を選択していきたいと考えております。

(委員)

先ほどの話なんですけど、紙ベースでも調査はしますけど、SNSで1,000人以上、この対象以外の人で、選ばれなかったけど、自分も回答したいなっていう人が、QRコードなんかで美里町のLINEかもしれないですけど、そういうことで答えられるって1,000人超えてもいいような状態で、一定以上にやれるって状態にしてもいいですね。

二つできるようにする。

(委員)

アンケートの意味を...何のためにアンケートをやるのかというところで、いろんなアイデアをもらうためにやるのか、何のためにやるのかっていう。

アイデアはいっぱいあった方がいいと思いますが。

(アドバイザー)

今ここまで検討がだんだんと深まってくるとそういうところが出てきますよね。意見が欲しいのか集計をするための。だから、アンケートを作成する前の段階なので、今2つのマトリクスができたわけじゃないですか。声を拾う。そして、声が出てきたものをまとめて次に意見を集約する。となっていくので、声を拾うということであれば、ちょっと件名が違うようにはなりますけど、今言ったようにアンケートがいいのか、さっき私が言ったようにワークショップをやるのか、それは皆さんが議論をされて、2段会方式でやるというのも方法じゃないでしょうか。

社会福祉系の委員を、推進員と審議員と社協さん交えて、社会福祉系の方を20年以上やっていたんですけども、着任して2年目が、私の意見で実は、2年に1回は必ず基礎調査をさせて、それこそ社協さんとか施設ごとで全部、私たち委員が10人でしたけど、手分けをしてワークショップを2年に1回、事業者ワークショップとか、利用者

ワークショップとか。

(委員長)

若い子たちに、例えば SNS でも、どうしたいですかと言っても分からないと思うので、例えばその現場を見て、ここで何をしたいか、こういう活用をしたいかという部分で持っていかないと、先ほど言ったように、すべてのアンケートがそうなんです。美里町は遊ぶところがない、子育てするところがないというような意見が結構出てきて、結局は多数決みたいな形で、利用はこういうふうにしましょうみたいな形の結末になってしまうと、今言われたような形で、本当にタイトなスケジュール感ではあるのですが、将来的なものを本当に考えていくのであれば、それが一番無難な道かなと私も思います。

(事務局)

アンケートの目的としまして、やっぱりその多数決をとるわけではないので。

皆さんどうのことを考えて、それでどんなものを作ったら本当に皆さんに役に立つのかという、そういう全般的な話です。これは 1 回目ですので、通常やるとういうやり方になるということで、今いろんな意見をいただきましたので、1 回目が終わったら分析しまして、2 回目でもたご相談するというので、お願いしたいと思います。

(委員)

ワークショップもやるって決まっていなくて...

(アドバイザー)

ではどうなんですか。今日はどこまで決めるんですか。

(事務局)

そこについては、ある程度一定の目標の 10 月っていうのはあるので、本当にそういったものもできるのかどうかを含めて、できるだけ 2 回目、早い段階でお願いするようにして、その時議論をしていただきたいと思います。

(各委員)

2 回目に、ワークショップをやるかどうか議論する？

(事務局)

そうですね。

ただ、日程的なところを考えると、ワークショップについては非常に厳しいと思います。

(委員長)

アンケートをとられた側からすると、例えば、子育て支援っていうふうにした。それで結構数が多かったのになんでそれに利用しないっていうような、それはやっぱり結構出てくると思うので、だからそのアンケートの意図っていうのがしっかりとしてないと。そんなことで考慮していただければと思います。

よろしいですか。

(委員)

このアンケートの内容については、7 月下旬から実施する予定なんですよ。

ということは、今回の会議で内容等が決まるということですか。

(事務局)

今回の会議の内容をいろいろと聞いておりますので、それに縛られるものではないというように。やはり次回会議を開

いて、いろいろご意見をいただいてからというふうを考えております。

アンケートをお送りする前にもう1回会議があるってことでいいですか。

(事務局)

はい、そういうふうを考えております。

(委員)

ワークショップというか、話を聴くのは、行政とはまた別に、我々委員が自主的に回って何か意見を集めてくるみたいなことはやってもいいのでしょうか。

(アドバイザー)

今までの私のアドバイザーの経験では、やっぱりそういうのって委員会で、委員さんが、中心となってワークショップをやるっていうのが多いので、もちろん町の委員会でワークショップをやっていること。結局、ただむやみにやるわけでもないから、アンケートっていうのが大体こんなものってなれば、紙で聞くのか口頭で聞くかくらいの話ですから、アンケートの中身がこれっていうことで進むのであれば、今日この会議の中で中身に関してはこの方向で行きましょう、肉付けはまた別のアンケートをとっていただいて、その上で私がさっきワークショップって言ったのは、今7月ですけど学校が夏休みに入ります。そうするとちょうどいい感じの時期ですよ。あやめの湯の施設も近しい、近くに集まってやるのか、じげんプラザがあるからそこに集まって、それこそ有志でもいいですよ。中学生、3つの学校に先着何人とか言ってじげんプラザに集まって、ワークショップで言いたいこと話しましょう。そんな感じでもいいでしょうし、せっかくこんな立派な施設がありますから、ここに呼んで、そうすると町の職員も入って、皆さん全員入られるのか、3つに分けるのか5つに分けるのかということも。

(委員長)

地域福祉の策定委員会の中でも、ワークショップを各地区でやっていたことがあって、結構活発な意見が出て、やっぱり皆さん町のことを考えていくっていうところでは、そういうふうに巻き込んでいくってすごく大事だなと、委員だけで何決めたんだらうなって話になってしまうと、やっぱり難しいことがいっぱいあるので、それもすごくいい意見だなんて気はしておりますが、本当にタイトなスケジュールっていう部分はあるので、その辺はもう1回町さんの方で。

(副委員長)

あやめ荘で、実はうちの方で指定管理を受けているんですけど、8月14日から2日間「開放デー」っていうのを設定しているんですよ。そのどこかでワークショップができるんじゃないかなっていうのを、今聞きながら思いました。

(事務局)

そういったことも含め、あとでご相談します。

よろしく願います。

(委員長)

そうですね、相談していただいて。

あとよろしいでしょうか。

では、(4) その他、事務局より願います。

(事務局)

積極的なご意見大変ありがとうございます。

それでは（４）のその他ということでございますが、冒頭でも申し上げましたとおり、会議終了後、現場の方に移動して現状を見ていただくということで予定しておりました。社協さんの方は、事務所の方からこちらの方においでいただいて、委員さんの方で車等で来なくて、町の方で送迎というか、車の準備はしてありますが、すぐ行きますよということで、そのまま終了して帰られるということも当然あるかと思っておりますので、いかがですか？こちらの方に同乗される方、委員さんの方でいらっしゃいますか。

それぞれ皆さん現場の方って形でよろしいですかね。はい、わかりました。

はい、それでは終了後に現地の方に集合という形でお願いしたいと思っておりますので、皆さんよろしく願いいたします。

（委員長）

皆さんの方から何かないでしょうか。

なければ、今日の事項４点終わりましたので、事務局の方へ返したいと思えます。

（事務局）

議長ありがとうございました。

（事務局）

それでは現地に行っても大丈夫な状況ですか。

はい、わかりました。

３時２５分をめぐりに集合いただければと思えますので、よろしく願いいたします。

６ 閉 会（事務局）

（事務局）

それでは閉会のことばを副委員長よりお願いいたします。

（副委員長）

今日は皆さんありがとうございました。

それでは、第１回検討委員会を終了させていただきます。

お疲れ様でした。